

- 問1 1221年、鎌倉幕府の混乱に乗じて朝廷の権力を取り戻そうとした後鳥羽上皇が、幕府を倒すために兵を挙げた出来事を何とといいますか。 (2021年 愛媛県公立入試 類似)
1. 承久の乱 2. 平治の乱 3. 応仁の乱 4. 保元の乱
- 問2 鎌倉幕府において、源頼朝の死後に北条氏が世襲した、将軍を補佐して幕政を統括する最高職の名称として正しいものはどれか。 (2023年 石川県公立入試 類似)
1. 連署 2. 管領 3. 六波羅探題 4. 執権
- 問3 鎌倉時代において、将軍が御家人の先祖伝来の所領を保障したり、手柄に対して新たな土地を与えたりする一方で、御家人が軍役や京都・鎌倉の警備といった義務を果たすことで成立していた主従関係を何とといいますか。 (2020年 岡山県公立入試 類似)
1. 寄進地系荘園 2. 守護・地頭の設置 3. 御恩と奉公 4. 封建社会の身分制
- 問4 鎌倉時代に起こった承久の乱の背景や経過について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2023年 大分県公立入試 類似)
1. 後醍醐天皇が幕府を倒そうと兵を挙げ、足利尊氏や新田義貞の協力により、日本では貴族を中心に優雅な国風文化が全盛期を迎えた。
2. 源頼朝の死後、北条氏が実権を握ったことに反発した平氏の残党が、西国で反乱を起こして幕府軍と戦った。
3. 後鳥羽上皇が幕府を倒そうと兵を挙げたが、北条政子の呼びかけに団結した御家人らの大軍によって幕府側が勝利した。
4. 将軍の跡継ぎ問題をきっかけに守護大名が二つの勢力に分かれて争い、京都を中心に11年に及ぶ戦乱が続いた。
- 問5 運慶や快慶によって東大寺南大門の金剛力士像が制作された13世紀前半、アジア大陸では新たな勢力が急速に台頭していました。当時の日本文化の背景と国際情勢の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)
1. 大陸では唐が滅亡して混乱が続いており、日本では貴族を中心に優雅な国風文化が全盛期を迎えた。
2. 大陸では秦の始皇帝が統一を果たしており、日本ではそれに対抗するために写実的な彫刻が作られた。
3. 大陸では宗教改革による対立が激化しており、日本では阿弥陀如来への信仰が武士の間に浸透した。
4. 大陸ではモンゴル帝国が勢力を拡大しており、日本では武士の好みに合った写実的で力強い文化が栄えた。
- 問6 鎌倉時代の社会において、女性が「地頭」に任命され、領地を管理する事例が見られた理由を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2021年 和歌山県公立入試 類似)
1. 女性が仏教の教えに基づいて貧しい人々を救済する役割を担い、幕府からその功績を認められたため。
2. 承久の乱の後に人手不足となり、幕府が緊急措置として女性を地頭に登用する制度を作ったため。
3. 親の所領を女子にも分けて相続させる慣習があり、所領を受け継いだ女性がその土地の地頭職を担ったため。
4. すべての土地を長男一人が継ぐ単独相続が基本であり、男子がいない場合のみ特例として女子が任命されたため。
- 問7 鎌倉時代、将軍と御家人の間には土地を仲立ちとした主従関係がありました。将軍が御家人の領地支配を認めたり、手柄に対して新たな土地を与えたりすることを「御恩」と呼びますが、対して御家人が戦時に軍役を果たしたり、幕府の警護を行ったりする義務を何と呼びますか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
1. 役事 2. 公事 3. 寄進 4. 奉公
- 問8 鎌倉時代に広まった臨済宗などの禅宗が、特に武士階級の間で広く受け入れられた理由を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 三重県公立入試 類似)
1. 自らの厳しい修行によって悟りを開こうとする教えが、武士の精神修養に適していたため
2. 阿弥陀如来を信じて念仏を唱えるだけで救われるという平易な教えが、忙しい武士に好まれたため
3. 加持祈祷によって現世の利益や国家の安泰を願う儀式が、武家政権の安定に不可欠だったため
4. 南無妙法蓮華経の題目を唱えることで救われるという教えが、団結を重んじる武士の気風に合ったため
- 問9 源頼朝が1185年に守護・地頭を設置する権利を認めさせ、1189年に奥州藤原氏を滅ぼしたことによって達成された、歴史的な意義として最も適切な説明はどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
1. 朝廷から政権を完全に奪取し、天皇に代わって新しい法律を制定した。
2. 平氏を滅ぼした後、軍事・警察権を背景として全国的な支配体制を固めた。
3. 上皇による院政を停止させ、貴族による政治を完全に終了させた。
4. 東北地方の金などの資源を独占し、宋との貿易を拡大させた。
- 問10 1232年、鎌倉幕府の3代執権である北条泰時が、日本で最初の武家法を制定しました。この法令を制定した主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 新潟県公立入試 類似)
1. 土地をめぐる争いなどに対し、武士の慣習に基づいた公平な裁判の基準を定めるため
2. 聖徳太子が役人の心得を示したように、仏教の教えを政治の基本に据えるため
3. 江戸幕府が全国の大名を統制し、許可なく城を修繕することを禁止するため
4. 足利尊氏が新しい政治の方針を示し、京都の公家社会のルールを武士に強制するため
- 問11 鎌倉時代の御家人の相続について記した記録によると、代を重ねるごとに領地を複数の子に分け与える慣習が続けられていました。このような相続方法が、幕府の支配体制に与えた大きな影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)
1. 相続争いを防ぐために幕府がすべての所領を没収したため、御家人は地頭としての権利を失い、公家が再び土地を支配した。
2. 土地の所有権が実力のある庶子に集中したため、惣領を中心とした一族のシステムが崩壊し、農業生産力が向上した。
3. 一族の団結力が強まったことで惣領の権限が拡大し、幕府の統制を受けずに独自の軍事行動をとるようになった。
4. 領地が細分化されたことで個々の御家人の経済力が低下し、幕府への奉仕である軍役を果たすことが困難になった。
- 問12 鎌倉新仏教の一つで、特定の姿勢で座り精神を統一する「座禅」を修行の根幹とし、鎌倉幕府の保護を受けて発展した宗派を次の中から選びなさい。 (2017年 和歌山県公立入試 類似)
1. 禅宗 2. 浄土真宗 3. 浄土宗 4. 日蓮宗
- 問13 平安時代から鎌倉時代初期にかけての出来事である、坂上田村麻呂による東北地方への派遣、平将門による関東での反乱、源頼朝による奥州藤原氏の滅亡を、発生した時期の古い順に並べたものとして正しいものはどれですか。 (2017年 香川県公立入試 類似)
1. 平将門の反乱 → 坂上田村麻呂の派遣 → 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡
2. 坂上田村麻呂の派遣 → 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡 → 平将門の反乱
3. 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡 → 平将門の反乱 → 坂上田村麻呂の派遣
4. 坂上田村麻呂の派遣 → 平将門の反乱 → 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡

答え合わせ・解説

問1	答え 1 承久の乱	鎌倉幕府の3代将軍・源実朝が暗殺された後の混乱を機に、後鳥羽上皇が執権の北条義時を討つよう命じて起こした反乱です。幕府軍が勝利した結果、朝廷を監視するために六波羅探題が設置され、幕府の支配力が西日本にも強く及ぶようになりました。応仁の乱は室町時代に起こった戦いです。
問2	答え 4 執権	源頼朝の死後、幕府の実権は頼朝の妻である北条政子の実家、北条氏へと移りました。北条氏は「執権」という役職に就き、形式的な将軍を支えながら、事実上の幕府の最高責任者として政治を動かしました。管領は室町幕府で将軍を補佐する職名であり、連署は執権の補佐役、六波羅探題は朝廷の監視などを行う地方官職です。
問3	答え 3 御恩と奉公	鎌倉幕府の体制を支えた基本的な主従関係を指します。将軍が御家人に与える土地に関連した恩恵を「御恩」、御家人が将軍に対して果たす軍役などの義務を「奉公」と呼び、土地を媒介として結びついていました。この関係が崩れることが、後の幕府滅亡の大きな要因となりました。
問4	答え 3 後鳥羽上皇が幕府を倒そうと兵を挙げたが、北条政子の呼びかけに団結した御家人らの大軍によって幕府側が勝利した。	朝廷の権力を取り戻そうとした後鳥羽上皇は、北条氏を中心とする幕府に対して討伐の命令を下しました。これに対し、源頼朝の妻であった北条政子が「頼朝公の恩は山よりも高く海よりも深い」と御家人たちに訴えて結束させたことが、幕府軍勝利の大きな要因となりました。
問5	答え 4 大陸ではモンゴル帝国が勢力を拡大しており、日本では武士の好みに合った写実的で力強い文化が栄えた。	13世紀前半は、大陸においてチンギス・ハーンがモンゴル帝国を建国し、急速に領土を広げていた時期に当たります。これと同じ時期の日本は鎌倉時代であり、幕府を中心とする武士の勢力が強まったことで、芸術面でも従来の貴族的な繊細さとは異なる、運慶・快慶に代表されるような力強く写実的な文化が発展しました。唐の滅亡は10世紀初頭、宗教改革は16世紀の出来事であるため、時代背景が異なります。
問6	答え 3 親の所領を女子にも分けて相続させる慣習があり、所領を受け継いだ女性がその土地の地頭職を担ったため。	鎌倉時代の武士の間では、女子にも所領を相続させる「分割相続」の仕組みがありました。地頭という職務は土地の管理・支配と密接に結びついていたため、分割相続によって土地を譲り受けた女性は、その土地を治める地頭として幕府から公式に認められることがありました。これは、後の時代のように長男一人が家督と所領を独占する「単独相続」が定着する前の、この時代特有の家族のあり方を示しています。
問7	答え 4 奉公	将軍と御家人の結びつきは、土地を基盤とした双方向の契約関係にありました。将軍から受けた「御恩」に対し、御家人は「いざ鎌倉」という緊急時の軍役や、京都・鎌倉を警備する番役などを通じて義務を果たす必要があり、これを「奉公」と言います。
問8	答え 1 自らの厳しい修行によって悟りを開こうとする教えが、武士の精神修養に適していたため	禅宗は、經典の暗記や複雑な儀式よりも、座禅による実践的な修行を重視しました。自分の力で悟りに到達しようとする厳格な姿勢は、日々命がけで戦いに臨む武士たちの自己規律や精神的な強さを養う手段として高く評価されました。特に北条時頼や北条時宗といった幕府の執権たちが禅僧に帰依し、鎌倉に建長寺や円覚寺などの寺院を建立したことで、武士の間での地位が確立されました。
問9	答え 2 平氏を滅ぼした後、軍事・警察権を背景として全国的な支配体制を固めた。	壇ノ浦の戦いで平氏を滅亡させた後、源頼朝は源義経の追捕を名目に、守護・地頭の設置を朝廷に認めさせました。その後、義経を保護していた奥州藤原氏を1189年に滅ぼしたことで、東北地方までを含む強力な武家政権の基盤が確立されました。これにより、土地の管理や警察権を武士が握る鎌倉幕府の支配体制が全国的なものとなりました。
問10	答え 1 土地をめぐる争いなどに対し、武士の慣習に基づいた公平な裁判の基準を定めるため	承久の乱の後、幕府の支配力が西日本まで及ぶようになると、武士同士や、武士と貴族の間で土地をめぐる紛争が急増しました。北条泰時は、源頼朝以来の先例や武士社会の慣習（道理）をもとに、誰にでも納得できる公平な裁判を行うための基準として御成敗式目（貞永式目）を制定しました。これは武士が自分たちの手で作り上げた最初の体系的な法律です。
問11	答え 4 領地が細分化されたことで個々の御家人の経済力が低下し、幕府への奉仕である軍役を果たすことが困難になった。	鎌倉時代初期の武士社会では、複数の子に所領を分け与える「分割相続」が一般的でしたが、代を重ねるごとに一人が所有する領地が小さくなる「領地の細分化」という問題が発生しました。これにより、御家人は馬や武器を整える経済的な余裕を失い、幕府に対する最も重要な義務である「いざ鎌倉」の際の軍役を十分に遂行できなくなりました。この経済的な衰退が、のちの幕府滅亡へとつながる大きな要因の一つとなりました。
問12	答え 1 禅宗	座禅を組んで悟りを目指す禅宗には、栄西が伝えた臨済宗や、道元が伝えた曹洞宗などがあります。これらは念仏や題目を重視する他の宗派とは異なり、自分自身の内面を鍛える修行を重視しました。特に臨済宗は鎌倉幕府の執権らの支持を受け、後の室町文化にも大きな影響を与えました。
問13	答え 4 坂上田村麻呂の派遣 → 平将門の反乱 → 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡	8世紀末から9世紀初めの平安時代初期、桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂が征夷大將軍として東北地方へ派遣され、蝦夷（えみし）の抵抗を抑えました。その後、10世紀中ごろの平安時代中期には、地方政治の乱れを背景に関東で平将門が反乱を起こし、武士の力が中央に知れ渡るきっかけとなりました。そして12世紀末、源頼朝が壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした後、奥州藤原氏を討伐して鎌倉幕府による支配を全国へと広げました。